



土曜授業の導入により きめの細かい指導で学力向上を目指す

千葉県野田市では、2014年度から公立の全小・中学校で土曜授業を導入している。地域の人々の協力を得ながら、各校がそれぞれの課題に基づいて、学力層に対応したきめ細かな指導など、普段の授業ではなかなか行えない授業に取り組んでいる。教員の負担軽減、人材確保などの課題を抱える中、どのように取り組みを定着させていったのか。

千葉県野田市

◎千葉県北西部に位置し、利根川や江戸川など三方を河川に囲まれた都市。2003年、旧野田市と旧関宿町が合併して現在の形となる。江戸時代よりしょう油醸造業が盛んで、キッコーマン株式会社の創業地として知られる。面積/約104 km² 人口/約15.6万人 小学校/20校 中学校/11校 児童生徒数/12,384人
教育委員会 所在地 〒278-8550 千葉県野田市鶴奉7-1
 電話 04-7125-1111
 URL <http://www.city.noda.chiba.jp/shisei/1004157/soshiki/kyoiku/index.html>

教育長インタビュー

土曜授業を、平日の学習指導や働き方を変えるきっかけに

野田市教育委員会 教育長 東條三枝子

2013年度の学力調査で 地域格差と二極化が課題に

野田市では以前から、地域の協力を得ながら、積極的に土曜日の活用を進めてきました。2002年度、完全学校週5日制が施行されたのを機に、地域の方々が先生役となって学習を支援する「サタデースクール」と、文化・スポーツ活動を行う「オープンサタデークラブ」を始めました。小学生の希望者が対象で、子どもの「居場所づくり」も大きなねらいでした。

ところが、2010年度の文部科学省「全国学力・学習状況調査」では、野田市の小・中学生の学力が低く、学力向上が大きな課題であることが明らかになりました。そこで、いくつか対策を始めたのですが、2013年度と同調査でも、中学生を中心に成績が伸び悩み、市内の地域格差や学力の二極化が顕著に見られる結果となりました。また、同調査では、「家庭学習の時間が少ない」「テレビやゲームの時間が長い」といったことも分かりました。加えて、土曜休日



とうじょう・みえこ 県内の中学校に教諭として勤務。その後、千葉県教育庁・千葉県庁での勤務を経て、2011年4月酒々井町教育委員会教育長、2013年4月千葉県教育庁教育振興部副参事、同9月千葉県教育庁東葛飾教育事務所長を歴任し、2015年4月から現職。

が定着してきたこともあり、サタデースクールへの参加者が次第に減ってきていました。

そうした背景の下、学力向上に向けた改革として浮上したのが、土曜授業の導入です。2013年度に学校教育法施行規則の一部が改正され、自治体の実情に応じて、土曜日の教育活動を柔軟に行えるようになりました。これを受け、野田市では、全ての小・中学生に均等な学習機会を提供し、きめ細かく、質の高い指導を展開していくという方針を打ち出し、2014年度に市内の全小・中学校で土曜授業を始めました（図1）。

平日の授業では実施しづらい 補充・発展学習が中心

土曜授業のねらいは二つあります。一つは、課題に感じながらも、通常授業ではなかなか出来ない、つまづきを補う学習や発展的な学習を行うことです。土曜授業の内容は、各校がそれぞれの課題に応じて自由に設定します。国語、算数・数学、英語で、習熟度別授業や少人数授業、ティーム・ティーチング（TT）を行う学校が多いようです。

また、自分で考え、自分の言葉で書くことが苦手な子どもが多いのも、野田市の課題です。全国学力・学習状況調査では、最初から「自分には出来ない」と諦めてしまうからか、無解答が多い傾向が見られました。そうした弱点を克服するために、NIE（新聞を教材にした学習）を取り入れる学校も増えてきています。

二つめのねらいは、地域人材を活用して、きめの細かい指導を行うことです。サタデースクール以来の地域力は野田市の財産であり、土曜授業においても引き続き、多くの地域の方々にご支援をいただいています。

サタデースクールで指導者として

図1 土曜授業の概要

- ①実施日・回数…毎月第2・第4土曜日を基本とし、午前中に3コマの授業を行う。授業時数は教育課程に含まれる。2014年度は17回実施。年度初めや運動会の時期は実施が難しいという学校の意見を受け、2015年度は15回の予定。
- ②内容・形態……主に、補充的な学習や発展的な学習など、日頃、なかなか時間の確保が難しい学習を、土曜日ならではの豊富な地域人材を生かして、きめの細かい指導体制で行う。
- ③人的な配置……学校の実態に応じて、習熟度別授業や少人数授業、TTなどを行う。
 [月～土] ①少人数授業などの講師…小学校に加え、中学校にも配置（全校）
 ②小学5年生の算数指導助手（*1）…増員
 ③中学校の数学サポーター（*1）…新たに配置（4校）
 ④要配慮児童生徒支援員…新たに配置（5校）（*2）
 [土曜日のみ]・土曜授業アシスタント…147人を希望校に配置（*3）
 （サタデースクールの指導者に加え、大学生を大幅に増員）

*1 2015年度、①と②をサポートティーチャーとして統合。 *2 2015年度は7校。 *3 2015年度は161人（6月末日現在）。
 *野田市教育委員会提供資料を基に編集部で作成

ご協力いただいていた多くの方に、土曜授業ではアシスタントとして児童生徒の支援に当たっていただいています。更に、予算を確保し、人員を増強することにより、TTや習熟度別授業などに取り組むことが出来るようになりました。

土曜授業をきっかけに 教育現場が活性化

土曜授業もスタートから2年目に入り、ようやく定着してきましたが、いくつかの課題が残っています。

その一つに、先生方の負担軽減があります。対策の一環として、土曜授業を導入するタイミングで、冬季休業と学年末休業を1日ずつ増やしたり、夏季休業期間中に10日間の機械警備期間（日直を置かなくてよい日）を設けたりして、教員が振替休日を実際に取得できるようにしました。

ところが、野田市では部活動が盛んで、更には地域活動も活発なため、土日にスポーツ大会などの行事がよく実施されています。それらに参加する教員も多く、「リフレッシュできない」「疲れが取れない」という声があるのも事実です。土日のどちらかを休みにするなど、部活動の回数や

時間を減らすことを各校に提案したり、地域の方をお願いして行事の実施時期や回数を見直してもらったりもしています。先生方には、この土曜授業を機に、時間の使い方を見直し、メリハリのある働き方を実現してほしいと思っています。

一方で、成果も表れ始めています。例えば、土曜授業で実施した試みの一部で成果が見られるようになると、それを平日の授業にも生かそうとする動きが先生方から出るなど、土曜授業をきっかけとして、通常授業の改善につながる議論が生まれ始め、先生方の意識も変わってきています。更に、保護者からは土曜授業をきっかけにして、普段の教育活動についても積極的なご意見をいただくようになりました。このように、野田市の教育現場が大いに活性化されたことは、土曜授業の成果の一つと捉えています。

子どもたちが「出来た」という喜びを感じ、先生方や保護者が「やって良かった」と思える取り組みになるよう、教育委員会でも先生方や地域の意見を取り入れながら、各校が取り組みを改善できるよう支援していきたいと思っています。

教育委員会の取り組み

学校が自校の課題に基づいて、主体的に土曜授業に取り組むための制度を整備

地域に協力を求め アシスタントの人員を確保

野田市教育委員会が土曜授業の導入について本格的に検討を始めたのは、下岡有希子前教育長が就任した2013年7月のこと。「学力向上と二極化の是正」をテーマに、教育委員会で話し合い、校長会との議論を重ねた上で、10月に校長・教頭代表や教育委員会事務局による「土曜授業検討委員会」を立ち上げた。PTA代表や、サタデースクールなどの活動を支えてきた関係者への説明・意見聴取を行い、理解を求めた。

下岡前教育長が、市議会で「子どもたちに義務教育で学力を付けさせるべきところを、何も手を打たずに卒業させるのは無責任」と述べたのもこの頃だ。そして、12月下旬の教育委員会議で、2014年度からの土曜授業導入が正式に決定。千葉県教育委員会とも話し合い、土曜授業に



野田市教育委員会
学校教育部
次長兼指導課長
桑原辰夫

くわばら・たつお
「常に学び、子どもにとって価値ある教員でありたい」



野田市教育委員会
学校教育部指導課
指導主事
間々田英示

ままだ・えいじ
「時に厳しく、時に優しく。人として温かみのある教員でありたい」

合わせて「学校職員の勤務時間等に関する規則」が改正された。

土曜授業の実施にあたり、ティーム・ティーチング（TT）や少人数授業などのきめの細かい指導をするためには、土曜授業をサポートするアシスタントの確保が大きな課題だ。サタデースクールが小学生対象だったことから、土曜授業でも小学校でのアシスタント希望者が多かった。学習内容が難しくなる中学校の希望者は少なく、当初は中学校が求める人員配置が出来ない状態だった。

そこで、2014年9月の市議会で、アシスタントの人員増のための補正予算を計上。4月からの取り組みで習熟度別授業に効果が見られたことから、市議会の承認が得られた。これにより、謝金を増額するとともに、東京理科大など近隣の理工系の大学生にも協力を依頼し、アシスタントを大幅に増員した。

初めて参加するアシスタントも多かったため、2014年度は年3回の「補習等アシスト事業研修会」を実施。「教室で気になる子どもへの対応について」「学習中における支援の仕方」など、具体的なケースを例にしながら研修を行った。

一方で、長年サタデースクールを支えてきてくれた地域の人々への説明にも心を砕いた。間々田英示指導主事は、「全国学力・学習状況調査などの結果から、野田市の最大の教育課題は学力向上であることをお伝えし、今後の取り組みへの協力をお願い

いたしました」と語る。

各校の企画書を精査し 人的リソースを割り当てる

土曜授業の内容や方法は、小・中学校がそれぞれの課題を踏まえて決める。各校は、前年度に教育委員会が用意する「企画書」に実施内容と必要なアシスタントの人数を記入して提出する。例えば、「各学年2クラスを3グループに分けて習熟度別指導を実施したい。そのためにアシスタントが○人必要」というように、具体的な内容とともに、必要な人員を示すのだ。教育委員会は、その企画書の一つひとつ吟味し、バランスを考慮しつつ、人員を割り当てる。

土曜授業では、算数・数学の苦手対策に力を置く学校は少人数授業やTT、習熟度別授業を組み合わせ、人員を多く配置して手厚い指導を行っている。また、書く力が弱いと感じた学校では、NIEを取り入れるところが増えている。

学校教育部の桑原辰夫次長は、現場の士気を高めるには学校や教員の主体性が鍵だと話す。

「土曜授業は、トップダウンで実施しても、効果はあまり期待できないと思います。学校や先生自らが、目の前にいる児童・生徒の課題を把握し、必要な手立てを考える。現場のアイデアを生かすことによって、学校の実態により即した指導が可能になり、先生方も力を発揮できるのではないかと考えます」

学力向上に役立つと感じる 教員が徐々に増加

野田市では、土曜授業の成果をどのように評価していくのか。「土曜授業だけを独立させて、何らかの目標を達成させるわけではない」というのが、野田市のスタンスだ。

教育委員会では、土曜授業をより良くしていくための検証体制を整えている。2014年度は、年3回、児童・生徒、保護者、教員を対象にアンケート調査を実施した(図2)。その結果を見ると、4月の第1回調査から12月の第3回調査にかけて、「普段出来ない指導や学習が出来ている」と答えた教員は35.9%から58.9%に、児童・生徒の学力向上を実感している教員も40.6%から58.5%に増えており、土曜授業を前向きに捉える教員が徐々に増えている。

児童・生徒への調査結果を見ると、「土曜授業は分かりやすい」と感じている子どもは、第3回調査で70%を超え、更に、「土曜授業で勉強することは、自分のためになる」と思う子どもも、小学生では約75%に達していた。自由記述回答では、「計算が速くなった」「朝起きて勉強する習慣が出来た」などの意見が見られる。

一方で、中学生からは「部活動の時間が減る」「休みが減り、疲れる」といった意見が多くあり、また、中学生の保護者でも、部活動への影響など、同様の傾向が見られた。これらは今後の課題としている。

教育委員会主導で 学校間のノウハウ共有を推進

取り組み内容の共有と質の向上を図るために、教育委員会、校長、教頭、PTA、教員の各代表による「土曜授業検証委員会」を設置し、意見交換を行う体制も整えた。2014年

度は、5月、8月、1月の年3回実施。土曜授業のアンケート結果の活用方法、土曜授業アシスタントの公平な活用、3～5年の長期スパンでの計画立案などについて意見交換をした。

また、学校間のノウハウの共有も進んでおり、取り組みの検証と全体の底上げに役立っている。

「2014年8月や2015年2月の校長会で事例共有したのをきっかけに、NIEや習熟度別授業が各校に広まっていきました。1年間、土曜授業に取り組んでみて、共有し合うことがとても大切だと実感しました」(間々田指導主事)

2015年度からは、市内の全小・中学校の教務主任が一堂に会し、自校の取り組みを発表する「実践協議

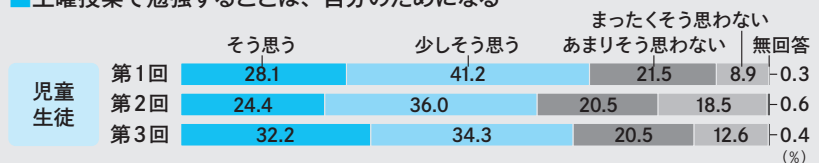
会」を開催し、地域・学校種を超えてノウハウを共有していくという。

更に、各校の取り組みと学習の達成度との相関を測るため、2015年度は年2回、市内全小・中学校で算数・数学の「野田市学習到達度調査」を実施する予定だ。この結果に基づいて、各校で改めて平日・土曜授業の内容を振り返ってもらい、教育活動の改善点を洗い出すという。

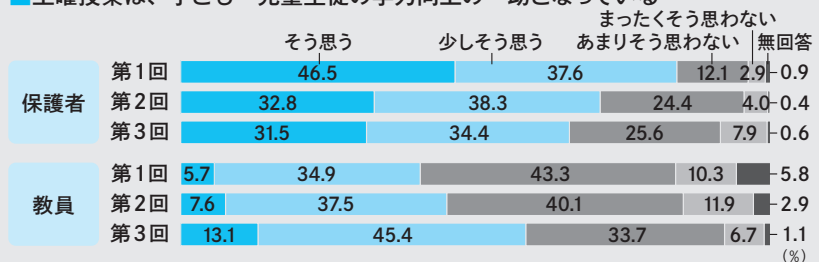
「土曜授業で初めて習熟度別授業に取り組んだ学校からは『子どもが質問しやすくなった』『理解が進んだ』という声が多く聞かれています。通常の授業ではなかなか出来ない個に対応した指導が可能になったことで、子どもの意欲も前向きになっていくことを期待しています」(桑原次長)

図2 土曜授業のアンケート結果(2014年度)

土曜授業で勉強することは、自分のためになる



土曜授業は、子ども・児童生徒の学力向上の一助となっている



	ポジティブな意見	ネガティブな意見
児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> 分からないところを先生に聞きやすくなった 計算が速くなった 朝起きて勉強する習慣が出来た 	<ul style="list-style-type: none"> 習い事があると大変 部活動の時間が減る 休みが減り、疲れる
保護者	<ul style="list-style-type: none"> 家にもなかなか勉強しないので学校で勉強してもらえると助かる 算数の復習やグループ分けした補習的学習は、つまずきの改善になる 規則正しい生活が出来ている 	<ul style="list-style-type: none"> 家族で過ごす時間が減った 野田市だけの実施では、大会等への参加や習い事で不都合を感じる
教員	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習などにより、個に応じた指導が出来る 	<ul style="list-style-type: none"> 疲れる

アンケートは、2014年の4月中旬、6月末～7月上旬、12月中旬に実施。対象は、教職員は市内全小・中学校全教員、児童・生徒及び保護者は、第1回・第2回は市内8校から抽出して実施、第3回は市内全小・中学校から小学4年生～中学3年生を対象に各校30人程度を抽出して実施。

*野田市教育委員会提供資料を基に編集部で作成

小学校での実践

土曜授業を生かした習熟度別指導とスタッフの重点配置で個の力を伸ばす

野田市立山崎小学校

◎ 1980 (昭和 55) 年開校。教育目標は「心豊かでたくましい児童の育成」。自然豊かな環境の中、児童が楽しいと思える学校、保護者から信頼される学校、教員にとって働きがいのある学校を目指す。

校長 一色輝男先生

児童数 392 人

学級数 14 学級 (うち特別支援学級 2)

住所 〒 278-0022 千葉県野田市山崎 2733

電話 04-7125-2938

URL <http://schit.net/noda/esyamazaki/>



算数の補習授業に 人員を集中的に配置

野田市立山崎小学校は、1 学年 2 学級の中規模校だ。子どもの学力は文部科学省「全国学力・学習状況調査」のおおむね全国平均レベルだったが、算数の基礎・基本に課題があった。また、成績の二極化が見られ、定着度に課題があるのも悩みだった。しかし、通常授業では、時間的にすべての学力層を手厚く支援することが難しい。そこで、土曜授業を活用して対策することにした。

土曜授業を実施するにあたり、まず課題となったのは、子ども一人ひとりの学力に応じたきめの細かい指導をするための人員の確保だ。同校には、教員のほか、市の施策で数年前から通常授業で担任とともにチーム・ティーチング (TT) を行う臨時講師 (サポートティーチャー) 2 人や、大学生からシルバー世代まで

幅広い年齢層の土曜授業アシスタント 8 人が配置されている。そこで、各学年とも、土曜授業 3 コマのうち 1 コマを算数の補習授業に充て、その時間に加配教員、管理職、サポートティーチャー、土曜授業アシスタントを集中的に配置することにした。

具体的には、1・2 年生は 1 時間目、3・4 年生は 2 時間目、5・6 年生は 3 時間目を算数の補習授業とし、習熟度別にホップ (基礎)、ステップ (習熟)、ジャンプ (発展) の 3 クラスに分けて、ドリル学習を実施 (1・2 年生は習熟度別ではなく TT)。あとの 2 コマは、担任による国語・算数の通常授業とした。補充人員を各学級均等に配置するのではなく、個別指導が必要な補習授業に集中的に配置し、メリハリを付けたのだ。

習熟度別クラスで より手厚い指導を目指す

土曜授業を上記のような形にした

のは 2015 年度からだ。2014 年度までは、通常学級で担任と土曜授業アシスタントらとの TT で授業を行っていた。ところが、学級内の学力層が幅広いいため、指導が行き届かないことが少なくなかったという。教務主任の遠藤克明先生は、こう話す。

「学級単位の指導では、どこかの学力層に焦点を当てて指導するのが難しく、もどかしさを感じていました。2015 年度はアシスタントが 2 人配置されたので、習熟度別クラスを編成し、よりきめの細かい指導を行うことにしました」

習熟度別クラスは、小テストの結果などを基に、子どもが自分自身で決める。各クラス的人员配置は、子どもの人数や習熟度によって異なる。例えば、4 年生では、ホップは子ども 6 人に対してスタッフ 2 人、ステップは子ども 14 人に対してスタッフ 3 人、ジャンプは子ども 38 人に対してスタッフ 3 人とした。ホップに手厚く人員を配置することで、より丁寧な指導を行えるようにしている。

ダウンロードプリントで 教員の負担を軽減

ところで、土曜授業の実施において何より課題となったのは、教員の負担が大きくなることだった。

「多忙な中でも先生方は土曜授業に前向きに取り組んでいます。学校側でも、行事や日課を工夫して時間確保に努めたり、土曜授業でも教員の負担を減らせるよう工夫したりしています」と、一色輝男校長は話す。

例えば、算数の補習授業では、まず担任が土曜授業の数日前までに 2 週間分の授業を振り返り、ホップ、ステップ、ジャンプの各クラスの授業内容・展開・支援方法を考える (図 3)。それを、土曜授業担当の加賀美遥先生が取りまとめて、当日、各ク

図3 土曜授業の計画表

学年	4年		
日時	6月27日(回目) 2校時		
授業内容	基礎<ホップ>	習熟<ステップ>	発展<ジャンプ>
展開	クラス(4-2)	クラス(4-1)	クラス(3-2)
	4-1 3人 4-2 3人 プリント学習	9人 5人 プリント学習	18人 18人 プリント学習
支援の方法	T, T A(全体別)進行 出し進め 手直し 個別指導 一問一答	T, T, A(5) Tを中心指導 プリントを自分で やる。得意は先生に 教わってもらう	T, A(5) A(5) E&Nプリントを 読む。教科書に ついてる白紙を 使って書く。 持ち帰る児童は プリントを 持ち帰る
その他 (支援が 必要な児童等)	児童数 6人	14人	35人

*山崎小学校提供資料を一部改変して掲載

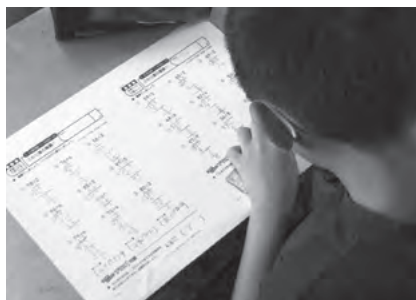


写真1 4年生の「ジャンプ」クラスで、黙々と★★★のプリントに取り組む児童。前・後期の最後にはドリル付属の「まとめプリント」「検定プリント」で、達成度を確認する予定だ。

クラスの担当者に配布。担当者はその計画に沿って授業を進める。

教材は、どの学年も、学校が採択した、インターネットダウンロードサービスの算数ドリルを活用している。遠藤先生は、このプリントの良さを次のように説明する。

「自主学習を中心とした授業では、習熟度別に教材を用意したり、早く終わる子どものために複数のプリントを用意したりと、準備だけでかなりの負担が生じます。その点、このダウンロードサービスは、インターネットからダウンロードしたプリントをそのまま印刷して使えるので、教材準備に教員が時間を掛けなくて済むのがよいと思います」

プリントの準備はサポートティーチャーが主に行い、担任の負担を最小限に抑えている。加賀美先生は、この算数ドリルになって、教材準備の手間がかなり軽減されたと話す。

「市販のドリルでは、授業進度やレベルを考慮しながら問題を抜粋してパソコンで打ち直すなど、教材作りに時間と手間が掛かりました。今回

のドリルは、教科書に対応し、かつレベル別なので、ダウンロードプリントをそのまま土曜授業に活用できます。また、著作権の問題を気にしなくてよいのも、大きなメリットです」

各クラスでは、ど

のように授業が行われているのだろうか。ドリルは★、★★、★★★の3つのグレードがある。例えば、4年生のホップクラスでは★のプリントを使って演習。子どもの手が止まるとすぐにスタッフが付き、個々の理解度・進度に応じて指導する。

一方、ステップは★★のプリント、ジャンプは★★★のプリントに取り組む。教室には、同じレベルのプリントが複数用意され、子どもは自分でプリントを取って黙々と問題に取り組み、自己採点をしたら次のプリントへと進む(写真1)。

土曜授業の成果を 普通の授業に生かす

当初は土曜授業に戸惑う教員が少なくなかったが、開始して1年以上が経った現在では、そのメリットを感じている教員が徐々に増えている。

「サタデースクールを行っていたときは、任意のため参加者にバラツキがあり、学力の面で本当に指導が必要な子どもの指導が出来ないというもどかしさがありました。しかし、

土曜授業が必修になり、習熟度別指導にしたことで、個に応じた指導が手厚く出来るようになったのは、良かったと思います」(加賀美先生)

今後の課題は、習熟度別クラスの子どもの人数を適正化することだ。4年生の6月の土曜授業では、教員の予想以上にジャンプを選ぶ子どもが多く、ジャンプだけで1クラス分以上の人数になった。後期の前半までに校内で意見を募り、クラス分けの方法を改めて検討していく予定だ。

更に、土曜授業を通して習熟度別授業の効果を感じている教員も増えている。今後は平日の通常授業にも習熟度別授業を取り入れていくことを検討中だ。



野田市立山崎小学校
校長

一色輝男

いっしき・てるお

「子どもの良いところをプラス思考でどんどん評価し、自信と誇りを持つ子どもを育てていきたい」



野田市立山崎小学校

遠藤克明

えんどう・かつあき

教務主任。「自信を持っていろいろなことに挑戦していける子どもたちを育てていきたい」



野田市立山崎小学校

加賀美遥

かがみ・はるか

サポートティーチャー。土曜授業担当。「子どもたちが『分かった』『出来た』と実感できるような指導を心掛けていきたい」

中学校での実践

課題に応じた 基礎基本の徹底とNIEの導入で 各成績層の力を伸ばす

野田市立東部中学校

◎ 1947 (昭和 22) 年、旭村立中学校として開校。「小さくとも価値ある光の東中生」をスローガンに、「豊かな知性と心情をもち、最後までやりぬく生徒の育成」を教育目標に掲げる。

校長 堀江幹雄先生

生徒数 186 人

学級数 8 学級 (うち特別支援学級 2)

住所 〒 278-0001 千葉県野田市目吹 1500

電話 04-7122-3015

URL <http://schit.net/noda/jhtoubu/>



「全国学力・学習状況調査」を契機に土曜授業を再編成

野田市立東部中学校は、土曜授業開始当初、国数英の補充的な授業を行っていた。学習内容定着のために2週間分の授業の振り返りを行っていたが、2014年8月に方針を転換した。文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果で、数学の基礎学力不足が浮き彫りになったからだ。更に、文章表現が苦手な生徒が多いという課題も見えてきた。堀江幹雄校長はこう話す。

「家庭の新聞購読率を調べたところ60%台でした。しかし、生徒に話を聞くと、新聞に興味がありそうだと分かりました。そこで、まずは新聞を読む機会を設け、生徒が社会動向について自分なりに考え、それを表現する力を身に付けることが大切だと考え、NIE(新聞を教材にした学習)を土曜授業の柱の一つ

に据えることにしました」

これらの課題の下、校内の学力研究推進部会が中心となって土曜授業を練り直し、2014年度2学期から次のような構成に改めた。

1時間目は、数学の基礎・基本の定着を目的に、1学年を習熟度別に3～4クラスに分けて学習。管理職を含めた教員、市から派遣される大学生の土曜授業アシスタント1人が指導に当たる。内容は各学年共に学年共通のドリルによる自学が基本で、自己採点して担当教員のチェックを受け、確認テストに合格したら次の段階に進むステップアップ形式だ。

2時間目は、主にテスト対策に取り組む。1時間目と同じように少人数授業とし、1年生では定期テストや実力テストに向けた演習を行うほか、通常授業ではなかなか行うことが出来なかった、社会の白地図を使った都道府県庁所在地の学習、理科の化学記号の学習なども行う。2年生

では、テスト対策のほかに、全国学力・学習状況調査の過去問演習と解説も行う。3年生では、前期はテスト対策を行い、後期は千葉県公立高校入試に向けた過去問演習を行う。

「塾に行っていない生徒がいるため、学校で入試対策が十分に出来るよう、土曜授業でその時間を確保しました」(堀江校長)

NIEを通して プレゼンカまで身に付ける

1時間目が成績下位層、2時間目が中位層をターゲットとした取り組みであるのに対して、上位層を伸ばすための取り組みが、3時間目に実施するNIEだ。「読む・書く・話す」という活動を通じて、思考力・判断力・表現力を鍛えるのが目的だ。

授業では、各学年で作成したワークシートを用いる。教員が生徒に読ませたいと思う記事を、経済・政治・文化・環境・スポーツ・国際・地域・人物の8分野から5分野選び、ワークシートを作成する。生徒は、その中から気になった2、3分野を選び、ワークシートに記事の要約と自分の考えを記入する(図4)。

1年生では、読めない漢字や意味が分からない用語を、漢字辞典や時事用語辞典などで調べながら、記事の内容を読み解くところから始める。また、要約や感想を書く際に単語の羅列とならないよう、「文章を書くときの10の決まり」を提示。これは、「書き出しは1文字分空ける」「敬体で書き始めたら、文末もそろえる」など、文章の基本的な決まりごとを示したもので、高校入試の小論文対策も視野に入れ、1年生からきちんとした文章を書く練習を積めるようにした。

「1年生では、記事の内容をまず理解し、要約を的確に書ける力を付けることを重視しています。後期から

図4 NIEのワークシート（3年生用）



紙面 2015年4月21日/読売新聞

*東部中学校提供資料をそのまま掲載

はグループ内での発表（写真2）を行い、プレゼンテーション力を高めていきます」と、教務主任の綿引尚人先生は説明する。

2年生では、グループ内での発表後、グループの代表者を決め、代表者が学級内で発表する。3年生では、それに加え、発表後にグループ内でディスカッションも行う。

「3年生にもなると原稿を見なくても発表できる生徒もいて、プレゼンテーション力がかなり身に付いていることがうかがえます」（綿引先生）

NIEなど言語活動を通じて 学力調査の無答率が激減

同校のNIEは、土曜授業以外にも広がりをを見せている。2015年度からは、日常的にNIEに取り組むため、生徒による「NIE実行委員」を立ち上げ、毎日、注目記事をスクラップして掲示するようにしている。

委員は各学年5人で、月～金曜のいずれか1日を担当。担当者は注目記事を選び、記事の概要、意見・感想、キーワードを書いて、記事とともに各学年の廊下に掲示する。校内には

学年ごとに新聞ラックがあり、常に新聞が読める環境にある。

「生徒が昼休みに廊下集まり、記事を読む光景が日常的になりました。実行委員を2か月ごとに入れ替え、1年間で学年全員が実行委員を経験できるようにしています」（綿引先生）

また、外部講師の講演会ではメモを取らせたり、授業の最後に今日学んだことや気づいたことなどを書かせたりと、学校生活のあらゆる場面で書かせる指導を徹底している。

これらの取り組みの結果、生徒の読解力や表現力が付いてきたと、教員は実感している。2015年度の全国学力・学習状況調査では、教員が解答用紙を確認したところ、空欄がほとんどなかったという。

「書くことに慣れてきたこともあり、NIEを通して文章を読み取る力が付いたことも大きかったと思います」（綿引先生）

ユニークな定期テスト準備と振り返り

土曜授業以外にも、同校には注目すべき取り組みが多い。定期テスト

写真2 NIEのグループでの共有の様子。考えを共有することで聴力を高め、コミュニケーション能力や協働性の育成も大切にしている。

前には、「テスト対策シート」に各教科の目標と目標点、目標順位、それを達成するための学習計画を書く。テスト当日は、いきなりテストをするのではなく、1時間目に学習会を行い、テスト対策をした上で2・3時間目にテストをし、4時間目に自己採点をするという方法を採用している。

「定期テストを通して、いかに学習内容を定着させるかが重要です。そのために対策の時間を十分に確保し、すぐに振り返りを行えるようにしました」（綿引先生）

このような学力向上に向けたさまざまな取り組みは、市の学力調査の結果にも表れている。

「これらの結果は、先生方が土曜授業などに前向きに取り組んでいる成果と言えます。今後も生徒の学力向上に向け、工夫を重ねていきたいと思えます」（堀江校長）



野田市立東部中学校
校長

堀江幹雄

ほりえ・みきお

「子どもたちに夢や希望を持たせて、一人ひとりの良さや可能性を伸ばせる教育現場でありたい」



野田市立東部中学校

綿引尚人

わたひき・なおと

教務主任。「地域に支えられる学校として、地域が誇れる学校、地域を誇れる生徒を育成していきたい」